

夫、此杖之遺方者、
 柳生氏濫觴之年
 久、然子多年終練
 不怠故、毛頭不殘
 令傳授者也、自今
 以後有繼子、請予
 志功、執心之輩以
 予所伝子之秘儀
 伝焉、不可輕許矣、

免

明和三丙戌
 十月 源常泰 (印・花押)
 馬來平内兵衛
 菅原宗冬
 菅原宗在
 菅原宗六
 菅原俊方
 柳生但馬守
 柳生宗嚴
 柳生但馬守
 柳生宗嚴
 柳生飛彈守
 柳生宗矩
 柳生宗冬
 菅原宗在
 菅原宗冬
 柳生對馬守
 菅原宗在
 柳生備前守
 菅原俊方
 馬來宗六
 源常房
 馬來平内兵衛

柳沢新右衛門殿
 (就章)

「柳生新陰流免状」 (小沢家文書479)

きたえる ①

武術伝書

《武術伝書とは？》

武術伝書（以下、伝書）とは、武芸の秘術や口伝を授ける際に、その証拠書類として師匠から弟子へ与えられるものです。形態は巻子（巻物）が多いですが、冊子や折本のものもあります。

伝書は一つの流儀で数種類あるのが普通で、修行の段階に応じて順次伝書を授かっていきます。最後に授かるのが奥義を極めた者に与えられる「免許皆伝」の書（普通は巻物）です。日常生活の中で、一人前になったという意味で使われることもある「免許皆伝」はここから出てきた言葉です。

《どんな種類があるの？》

伝書をおおまかに分類すると、以下のようなものがあります。

① 目録巻

修行の各段階で授けられる巻子のほかに、「総目録」といって、その流儀の全技法

を示したものがあります。わかりやすく言うと、いわゆる「形（かた）」の名称を羅列したものです。

② 絵目録

各「形」ごとに絵を描き加え、視覚的にわかりやすく解説したものです。鮮やかな彩色を施した美術的な価値が高いものから、トンボ絵と呼ばれる簡略画まで様々なものがあります。

③ 歌目録

流儀の口伝や極意を覚えやすいように三十一文字（五・七・五・七・七）にまとめて伝えるものです。

④ 特殊巻

柔術の殺活巻、居合術の介錯巻、外物（とのもの）巻、起請文、真言秘密巻等々があります。例えば、居合術の介錯巻では切腹の所作から心構えに至るまでが詳細に解説されています。また、外物巻は、「夜中用心之事」「旅行之時心得之



武術と天狗

柔術の一派である楊心流の伝書には、しばしば天狗が登場します。楊心流の遠祖とされる鞍馬僧正坊は、天狗を動員して牛若丸（のちの源義経）に兵法を伝授して平家を討たせようとしたという話も伝わっています。また剣術には、かつて正天狗流（小天狗鞍馬流）という流派がありました。その流れをくむ椿小天狗流棒術は現存しています。

事」など武芸者の日常の心得が説かれているものがあります。

⑤ 免状

免許皆伝の際に授けられる極めて短い卷子や書状です。その流儀の教程をすべて終了した証拠となる最上級の卒業証書です。

⑥ 覚書

個人の備忘録として控えておいたもので、「形」の手順が詳細に記録されています。

⑦ 教義（思想）書

武芸の修了証書とは別に、流儀や武芸一般にわたる教義・理論・思想などをまとめたものです。宮本武蔵の『五輪書』などはこれに当たります。

《巻末に注目！》

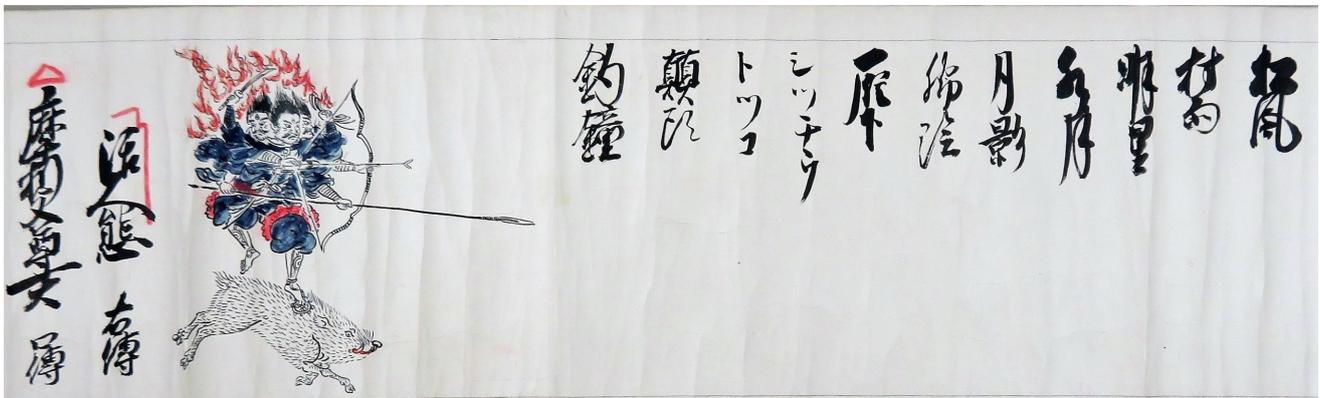
伝書の巻末には、伝授文句、流祖からの累代相伝者の姓名、伝授された年月日、伝授する師匠の名前と花押・印章、宛名（伝授される弟子の名前）が記してあ

るのが通例です。代々相伝されてきた流派の歴史と重みが最も感じられる箇所といえるでしょう。

《柳生新陰流の伝書》

表面の上の写真は、明和3年（1766）に萩藩の剣術師範であった馬來（まき）常泰が萩藩士の柳沢就章（新右衛門）に授けた柳生新陰流の伝書です。前述の分類でいえば、免許皆伝に際して与えられる免状です。柳生新陰流は、江戸時代に小野派一刀流と並んで徳川將軍家に採用された剣術の流派として著名ですが、萩藩にも導入されて萩藩剣術の主流を占めました。この免状によれば、柳生宗厳→柳生宗矩→柳生宗冬→柳生宗在→柳生俊方→馬來常房→馬來常泰と相伝されてきた「杖之遣方」が長年の修練の結果、柳沢就章に伝授されたことがわかります。

なお正確には、柳生新陰流には「古流」である甲冑剣法（戦場剣法）と「当流」の素肌剣法（平時の剣法）とがありました。萩藩では当初前者が導入され、寛文7年（1667）以降、史料上で「新陰柳生家当流」と呼ばれた後者が主流を占めていきました。



「揚心流覚悟之巻」（小沢家文書484）

柔術の流派の一つである揚心流（ようしんりゅう）の武術伝書です。揚心流は、江戸時代初期に始まり、現在の柔道の源流の一つともなりました。多くの絞め技を伝承しているのが特長で、殺活法（主に急所知識、急所への当身と蘇生法）や医学知識に優れていました。上の写真は、殺活法における急所名（村雨、水月等々）と猪に乗った摩利支天が描かれている部分です。摩利支天は陽炎を神格化した仏教の守護神で、日本では武將に信仰されました。なおこの伝書は、前述の分類でいえば、④の特殊巻に当たります。

【参考文献】

小佐野淳『図説・日本武芸文化概論』（風洋舎、1994年）

山口県剣道史編集委員会『山口県剣道史』（山口県剣道連盟、2004年）ほか